



ブロー・キット

グラウンドマスター 3320 & 3280-D, 60"
サイド・ディスチャージ・モア用

Model No. 30357—Serial No. 260000001 and Up

取り付け手順書

安全について

不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、人身事故につながります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください。△これは「注意」、「警告」、「危険」など、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生することがあります。

運転の前に

- 本機をご使用になる前に必ずこのマニュアルをお読みにになり、内容をよく理解してください。操作方法をしっかりと身につけ、緊急時にすぐに停止できるようになってください。
- 子供に運転させないでください。大人であっても適切な訓練を受けていない人には運転させないでください。このマニュアルを読み、内容をきちんと理解した人のみが取り扱ってください。
- アルコールや薬物を摂取した状態で運転や操作を行うことは避けてください。
- 運転中にカッターの刃に跳ね飛ばされる危険のあるものは事前に取り除いておいてください。作業場所から人を十分に遠ざけてください。
- ガードなどの安全装置は必ず所定の場所に取り付けて使用してください。安全カバーやシールドが正しく機能していなかったり破損したり、ステッカーの字がよめなくなったりした場合には、機械を使用する前に修理し、ステッカーは新しいものに貼り換えてください。また、常に機械全体の安全を心掛け、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- また、だぶついた衣類は機械にからみつく危険がありますから着用しないでください。作業には、必ず長ズボンと頑丈な靴を着用してください。安全メガネ、安全靴、およびヘルメットの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられています。
- 走行ペダルから足を離し（ニュートラル位置）、PTOスイッチをOFFにした状態以外ではエンジンが始動しないように、インタロック装置を適切に調整してください。
- 給油はエンジンを掛ける前に行ってください。燃料をこぼさないでください。燃料は引火性が高いので、取

り扱いには十分注意してください。

- 燃料は認可された容器に保管する。
- エンジン回転中や停止直後に燃料タンクのふたを開けない。
- 燃料取り扱い中は禁煙を厳守する。
- 給油は屋外で行い、給油の量はタンクの首の根元より（25 mm）程度下までとする。首の部分まで燃料を入れない。
- こぼれた燃料はふき取る。

運転中に

- エンジンの始動や運転操作は必ず着席して行ってください。
- エンジンを掛ける前に：
 - 駐車ブレーキを掛ける。
 - 走行ペダルがニュートラル位置、PTO スイッチがOFF 位置にあることを確認する。
 - エンジンが始動してもすぐに走行を開始しないで、走行ペダルから足を離したままで様子を見る。マシンが走り出さないことを確認する。動き出すのはニュートラル復帰メカニズムの調整不良である。その場合には、エンジンを停止し、走行ペダルを踏み込まない限りマシンが走り出さないように正しく調整する。
- 締め切った場所でエンジンをかけるときは、必ず十分な換気を確保してください。エンジンからの排気は有毒であり、場合によっては死亡事故につながります。
- 車両は一人乗りです。絶対に人を乗せないでください。
- 頭上の障害物に注意し、機械をぶつけないようにしてください。
- カuttingユニットには、必ず、デフレクタまたはブロー・アセンブリを正しく取り付け使用してください。
- 斜面での運転操作に十分に慣れていることが必要です。斜面や不整地は転倒などの重大な事故の置きやすい場所であり、注意の不足から車両を制御できなくなると大変危険です。
- 斜面の横切り運転は十分注意してください。斜面を横断中や上り斜面、下り斜面で急発進や急停止をしないでください。

- 斜面でエンストしたり、坂を登りきれなくなったりした時は、絶対にUターンしないでください。必ずバックで、ゆっくりと、まっすぐに下がって下さい。
- 運転にはオペレータによる十分な注意が必要です。転倒や暴走事故を防止するために以下の点にご注意ください：
 - 作業は日中または十分な照明のもとで行う。
 - 運転は常に慎重に。
 - 急停止や急発進をさける。
 - バックする際には後方の安全を確認する。
 - 隠れた穴などの見えない障害に警戒を怠らない。
 - サンドトラップや、溝・小川など危険な場所の近くを通らない。
 - 小さな旋回をする時や斜面で旋回を行う時には必ず減速する。
 - また斜面を下るときにはハンドリングを安定させるためにカッティングデッキを下げておく。
- プロア・アセンブリを取り付けない場合には必ずデフレクタを取り付け、デフレクタを一番低い位置にセットして運転してください。この芝刈機では、草地で作業中にブレードに当たった異物は、地面に打ち込まれてその運動エネルギーを急速に失うよう設計されています。しかし、過信は禁物です！人や動物が突然目の前に現れたら直ちに芝刈り停止。注意力の分散、アップダウン、機械から飛び出す異物など思わぬ危険があります。周囲に人がいなくなるまでは作業を再開しないでください。
- ブレードなどが回転している間は絶対にデッキを上昇させないでください。
- カッティングユニットを固いものにぶついたり、マシンが異常な振動を始めた場合には、PTO を解除し、スロットルを「低速」にセットし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。事故防止のため、キーを抜き取ってください。そして、カッティングユニット、プロア・アセンブリおよびトラクションユニットに損傷や異常がないか点検してください。損傷や異常があれば修理を行ってください。点検修理が終わるまでは作業を再開しないでください。カッティングユニットのブレードが適切な状態であること、またブレード・ボルトが適切なトルクで締め付けられていることを確認してください（カッティング・デッキのオペレーターズマニュアルを参照）。
- 万一、カッティングユニットの排出口やプロア・アセンブリが詰まった場合には、まずPTOを解除し、必ずエンジンを停止させてから詰まりを取り除いてください。
- 走行状態から停止するには、走行ペダルから足を離し、ブレーキを使用してください。走行ペダルをゆっくりと後退側に踏み込むことによっても、ブレーキを掛けることができます。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体、マフラー

やその周囲に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。

- マシンから離れる際には、必ずカッティングユニットを地表面まで降下させ、キーを抜き取ってください。
- 運転席を離れる前に：
 - 走行ペダルをニュートラル位置に戻し、ペダルから足を離す。
 - 駐車ブレーキを掛け、PTO を解除する。
 - エンジンを止め、キーを抜き取る。機械各部の動きが完全に停止したのを確認してから席を離れる。

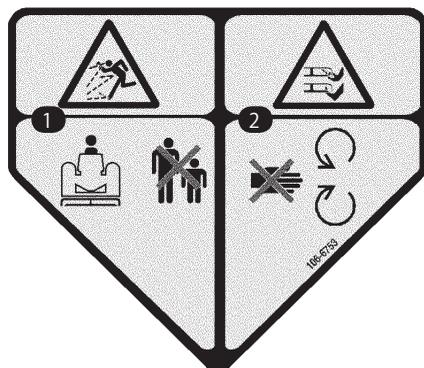
保守

- 整備・調整・格納作業の前には、エンジンが不意に作動することのないよう、必ずキーを抜き取っておいてください。
- 大がかりな修理が必要になった時、補助が必要な時Toro 正規代理店にご相談ください。
- 火災防止のため、エンジンの周囲に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。
- ボルト、ナット、ネジ類は十分に締めつけ、常に機械全体の安全を心掛けてください。カッティングユニットのブレードが適切なトルクで締め付けられていることを、ひんばんに確認してください（カッティング・デッキのオペレーターズマニュアルを参照）。
- 油圧系統のラインコネクタは頻繁に点検してください。油圧を掛ける前に、油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- 油圧のピンホール・リークやノズルからは作動油が高圧で噴出していますから、手などを近づけないでください。リークの点検には新聞紙やボール紙を使い、絶対に手を直接差し入れたりしないでください。高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こします。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
- 油圧系統の整備作業を行う時は、必ずエンジンを停止し、デッキを下降させてシステム内部の圧力を完全に解放してください。
- エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、PTO シャフトやカッティングユニットのブレードなどの可動部に手足や頭や衣服を近づけないように十分ご注意ください。
- この機械は乗用芝刈り機の安全規格に適合する製品として製造されています。いつも最高の性能と安全性を確保するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを使用すると安全規格を満たさなくなる危険があり、また、製品保証が適用されなくなる場合があります。

安全ラベルと指示ラベル

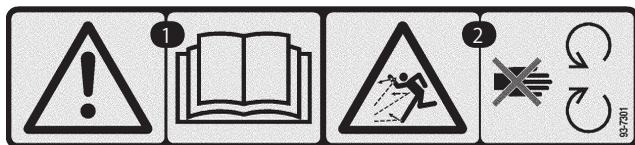


危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



106-6753

1. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
2. ブレードによる手足切断の危険—可動部に近づかないこと。



93-7301

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと
2. 飛来物危険：可動部に近づかないこと



107-2926

1. インペラによる切傷や手足の切断の危険：可動部に近づかないこと。
2. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。

組み立て

付属部品表

注：組み立てに必要な部品がそろっているか以下の表で確認してください。全部そろっていないと正しい組み立てができません。仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

名称	数量	
後バッフル	1	
キャップスクリュ, 3/8 x 1 in.	2	
フランジ・ナット, 3/8 in.	2	
排出用シェルフ	1	
キャリッジ・ボルト, 3/8 x 1 in.	2	
フランジ・ナット, 3/8 in.	2	
前バッフル	1	
キャリッジ・ボルト, 3/8 x 1 in.	1	
キャップスクリュ, 3/8 x 1 in.	3	
ワッシャ	3	
フランジ・ナット, 3/8 in.	4	
駆動プーリ	1	
プーリ・ナット	1	
スプリング・クリップ	2	
パン・ヘッド・スクリュ, #8 x 1/2 in.	2	
ナット, #8	2	
タイ・ダウン・ブラケット	1	
キャリッジ・ボルト, 5/16 x 1 in.	3	
ロックナット, 5/16 in.	3	
ベルト・カバー取り付けブラケット	1	
キャップスクリュ, 5/16 x 1 in.	2	
ロックナット, 5/16 in.	2	
ブロア・アセンブリ	1	
V-ベルト	1	
ベルト・カバー	1	
シュート・アセンブリ	1	
シュート・ブラケット	2	
ロックナット, 5/16 in.	4	
取り付け手順書	1	取り付け作業前にお読みください。
パーツカタログ	1	

デフレクタを取り外す

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、昇降レバーをフロート位置にセットし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取る。
2. デフレクタをピボット・ブラケットに固定しているロックナット、ボルト、スプリング、スペーサを外す(図1)。デフレクタを取り外す

注：側方排出(サイド・ディスチャージ)モードに変更する場合には必要ですので、デフレクタの部品はすべて保管してください。

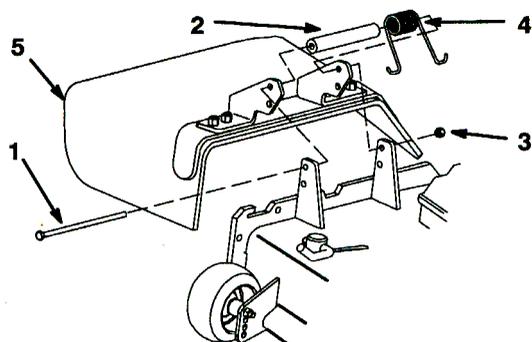


図1

1. ボルト
2. スペーサ
3. ロックナット
4. スプリング
5. デフレクタ

トラクションユニットからカッティングユニットを外す

1. 各刈高ロッドの上部についているキャップスクリューとワッシャを外す(図2)。
2. カッティングユニット後部で、刈高ロッドに刈高カラーを固定しているヘアピンとクレビス・ピンを外す(図2)。刈高カラーを外す。
3. 昇降アームをキャスト・アーム・ブラケットに固定しているヘアピン・コッターとクレビス・ピンを外す(図2)。
4. PTO シャフトのオスメスの接続部分を解除して、カッティングユニットをトラクションユニットから引き出す。

危険

PTO シャフトを接続したままでエンジンが始動すると重大な人身事故が発生する恐れがある。

PTO シャフトがカッティングユニットのギア・ボックスに接続されるまでは、エンジンを始動してPTOレバーを操作してはならない。

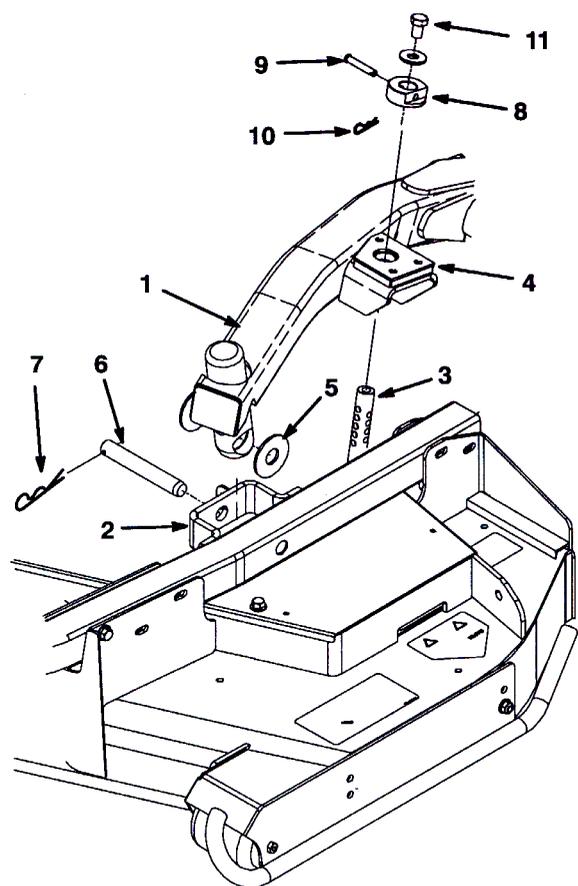


図2

1. 昇降アーム
2. キャスタ・アーム・ブラケット
3. 刈高ロッド
4. 昇降アームの패드
5. スラスト・ワッシャ
6. クレビス・ピン
7. ヘアピン・コッター
8. 刈高カラー
9. クレビス・ピン
10. ヘアピン・コッター
11. キャップスクリュー

ブロアを取り付ける

1. カuttingユニットの右側を持ち上げ、ホイールを床からわずかに浮かせて支える。
2. Cuttingユニットに右側キャスト・アーム (図3) を固定しているボルトとナットを外す。キャスト・アームを取り外す。

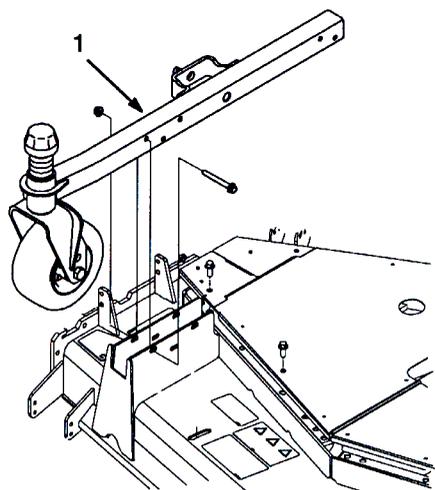


図3

1. 右側キャスト・アーム

3. Cuttingユニット上部から、右カバー2枚と、センター・カバー1枚を外す (図4)。

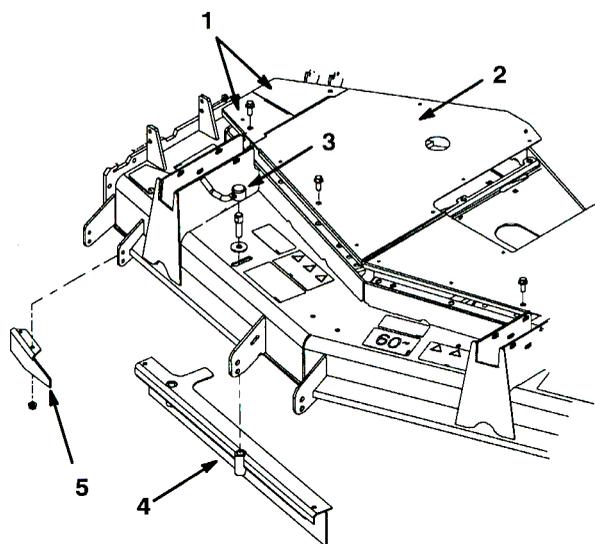


図4

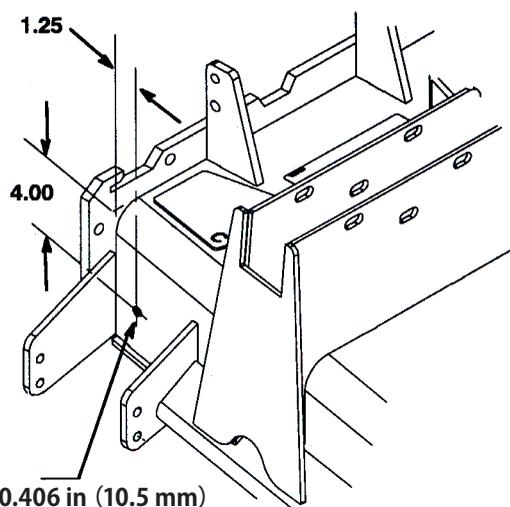
1. 右側デッキ・カバー
2. センター・カバー
3. カム・ロック
4. 調整式フロー・バップル
5. 排出用バップル

4. Cuttingユニットに調整式フロー・バップル (図4) を固定しているカム・ロック、ワッシャ、ナットとボルトを外す。バップルその他を外す。

5. Cuttingユニットに排出バップル (図4) を固定しているボルトとナットを外す。バップルその他を外す。

注：側方排出 (サイド・ディスチャージ) モードに変更する場合には必要ですので、バップルとその部品はすべて保管してください。

6. 図5を参照して、Cuttingユニットの右前角部分に直径 0.406 in (10.5 mm) の穴を開ける。



直径 0.406 in (10.5 mm)

図5

7. キャリッジ・ボルト (3/8 x 1 in.) とフランジ・ナット (3/8 in.) 各2を使って、Cuttingユニットの正面と下面とにわたって、図6 および7 のように排出用シェルフを取り付ける。

7. キャップスクリュ (3/8 x 1 in.) を3本、ワッシャ 3枚、キャリッジ・ボルト (3/8 x 1 in.) を1本、フランジ・ナット (3/8 in.) 4個を使って、図6 および7のように、Cuttingユニットの下に新しい前バップルを取り付ける。

7. キャップスクリュ (3/8 x 1 in.) フランジ・ナット (3/8 in.) 各2を使って、Cuttingユニットの下面に、図6 および7のように後バップルを取り付ける。

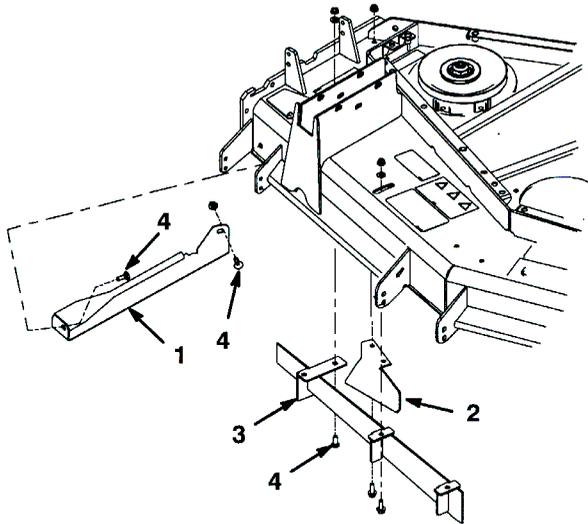


図6

1. 排出用シェルフ
2. 後バップル
3. 前バップル
4. キャリッジ・ボルト

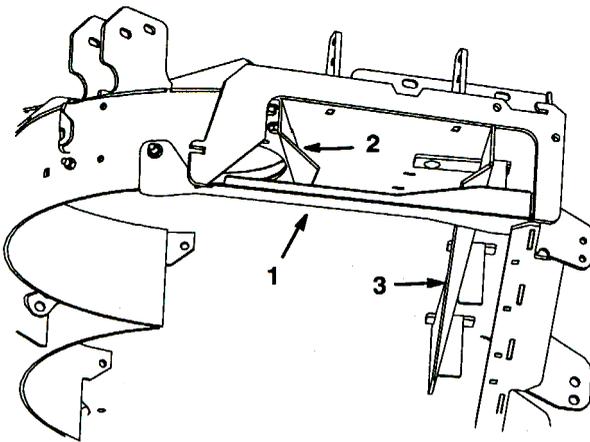


図7

1. 排出用シェルフ
2. 後バップル
3. 前バップル

10. ラチェット (1/2") やトルク・レンチなどの工具を使って、アイドラ・プーリ (図8) をベルトから引き離してベルトの張りをなくし、ベルトを右スピンドル・プーリから外す。

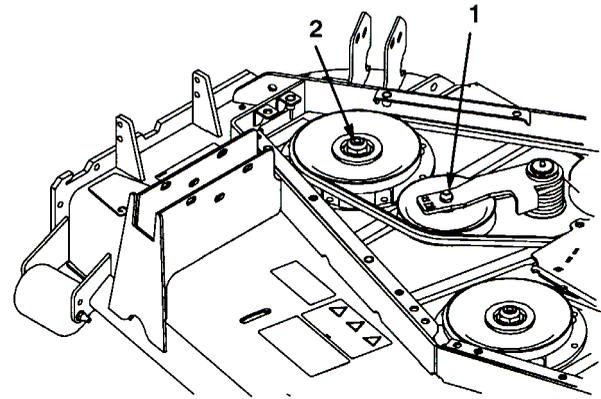


図8

1. アイドラ・プーリ
2. 駆動プーリのナット

11. 右スピンドル・プーリをスピンドルに固定しているナット (図8) を取り外す。プーリとワッシャを取り外す。
12. プーリの下からVリング・シールを外し、これを新しいダブル・プーリの下側プーリ取り付ける。
13. 新しいダブル・プーリ (図9) をVリング・シールとワッシャと共にスピンドル・シャフトに取り付ける。プーリをプーリ・ナットで固定する。(図9)。ナットを 13.8 kg.m にトルク締めする。

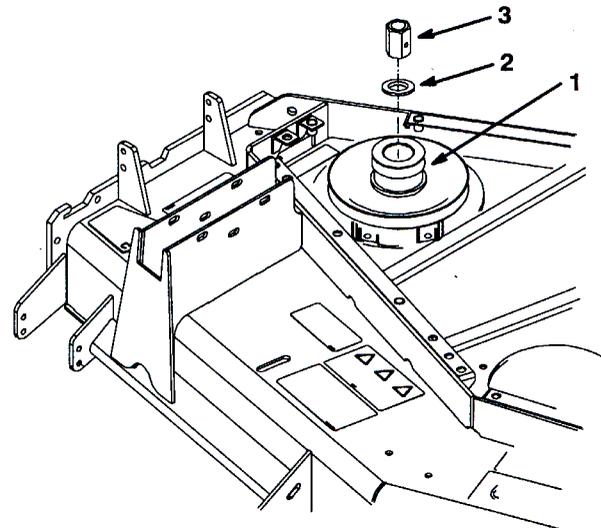


図9

1. ダブル・プーリ
2. ワッシャ
3. プーリのナット

14. ラチェット (1/2") やトルク・レンチなどの工具を使って、アイドラ・プーリ (図7) をベルトから引き離してベルトの張りをなくし、ベルトを、ダブル・プーリの大きい方へ掛ける (図8)。

15. 図10を参照して、センター・カバーにノッチを作る。

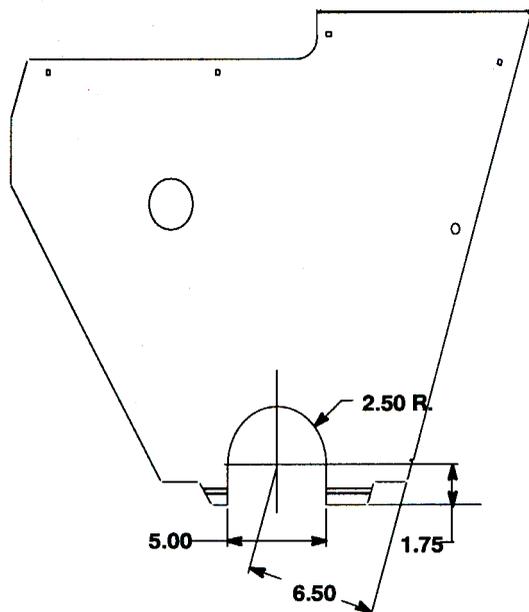


図10

16. 図11を参照して、センター・カバーに直径 0.188 in (4.8 mm) の穴を2つ開ける。

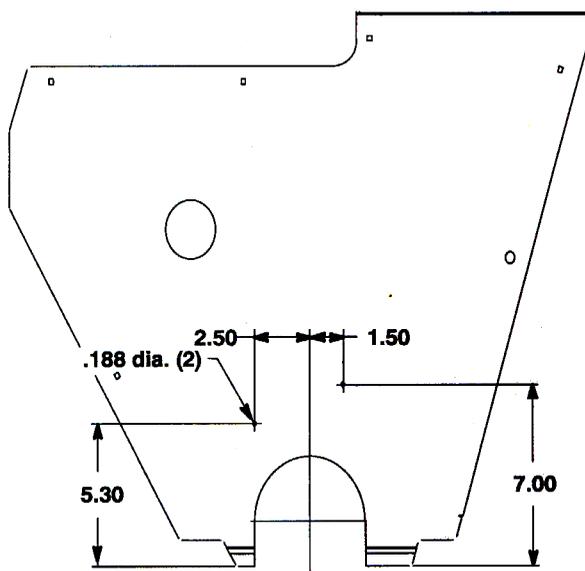


図11

17. パン・ヘッド・ネジ (#8 x 1/2 in.) とナット (#8) を使って、カバーに開けたそれぞれの穴にスプリング・クリップ (図12) を取り付けます。

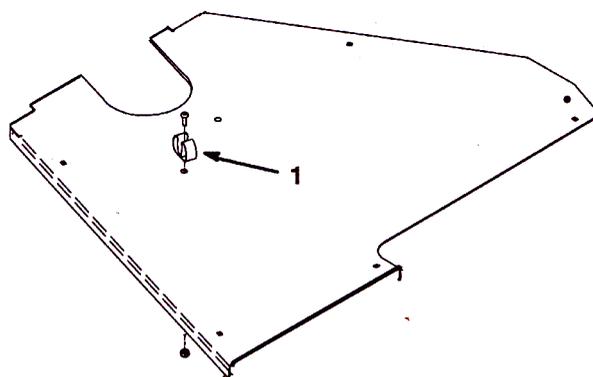


図12

1. スプリング・クリップ

18. カuttingユニットにセンター・カバーを元のように取り付けます。

19. 図13を参照して、右キャスト・ブラケットの前部に直径 0.875 in. (22.2 mm) の穴を開ける。

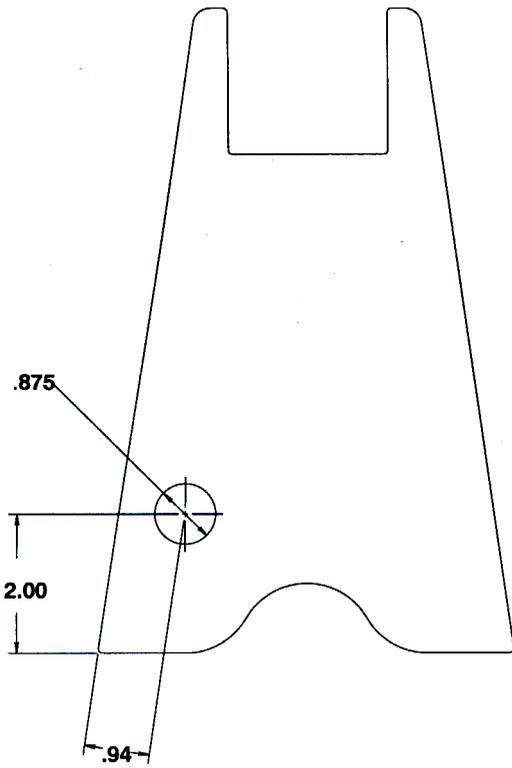


図13

20. キャリッジ・ボルト (5/16 x 1 in) とロックナット (5/16) 各3を使って、カッティングユニットの右後角部にタイ・ダウン・ブラケットを取り付ける。ブラケットは図13のように取り付ける。ボルトは、頭部がカッティングユニットの内側に来るように取り付けること。

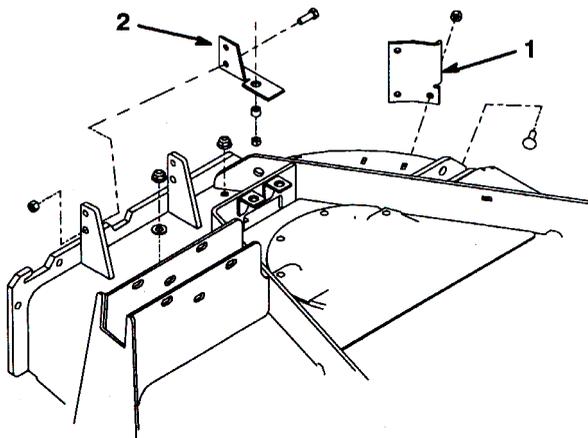


図14

1. タイ・ダウン・ブラケット
2. ベルト・カバー取り付けブラケット

21. キャップスクリュ (5/16 x 1 in) とロックナット (5/16) 各2を使って、デフレクタの前ピボット・ブラケットの内側にベルト・カバー・ブラケットを取り付ける。ブラケットは図14のように取り付ける。ボルトは、頭部がカッティングユニットの内側に来るように取り付けること。

22. 新しく取り付けしたスピンドル・プーリの小さいほうのプーリに、小さいほうのV-ベルトを掛ける (図15)。

23. カッティングユニットにキャスト・アームを元通りに取り付ける。

24. カッティングユニットにフロア・アセンブリを取り付ける；この時、調整式クランプのロッドをキャスト・ブラケットの前の穴とタイ・ダウン・ブラケットに通す。調整式クランプを固定する (図15)。

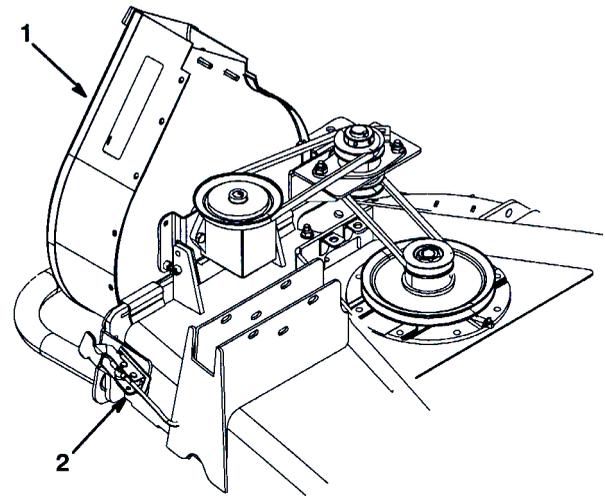


図15

1. フロア・アセンブリ
2. 調整式クランプ

25. 下側ジャック・シャフト・プーリに駆動ベルトを取り付ける (図15)。

26. 以下の手順でベルトの張りを調整する：

走行ベルト

- ジャック・シャフト・アセンブリを調整ブラケットに固定しているボルトとナットをゆるめる (図15)。
- ラチェット (1/2") やトルク・レンチなどの工具を使ってジャック・シャフト・アセンブリを回転させてベルトの張りを出す。
- ボルトとナットを締めて調整を固定する。

フロア・ベルト

- 調整ブラケットをフロアのマウントに固定しているボルトとナット各2をゆるめる (図16)。

- 調整ブラケットを外側に動かしてベルトの張りを出す。
- ボルトとナットを締め付けて調整を固定する。

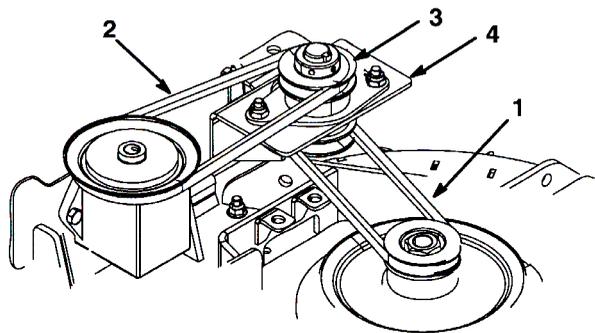


図16

1. 駆動ベルト
2. プロア・ベルト
3. ジャックシャフト・アセンブリ
4. 調整ブラケット

27. ベルト・カバーを取り付け、ラッチを掛ける (図17)。

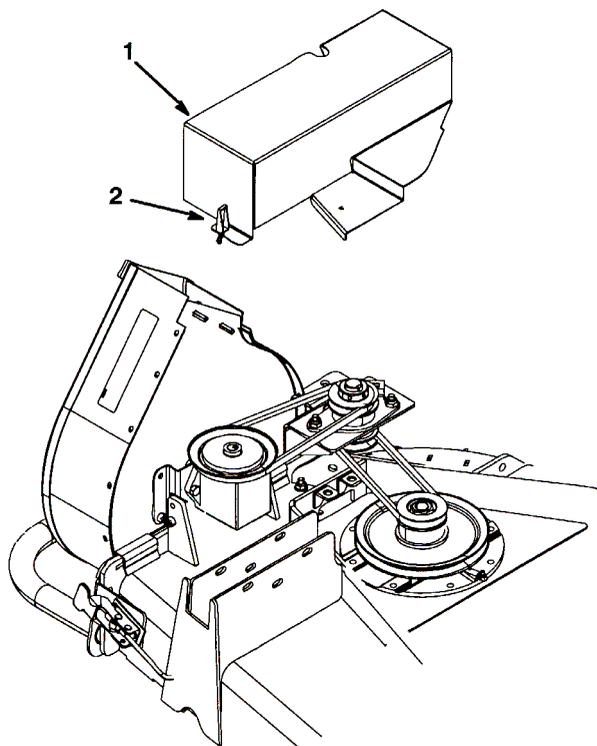


図17

1. ベルト・カバー
2. ラッチ

トラクションユニットへのカッティングユニットの取り付け

1. カッティングユニットをトラクションユニットの前に置く。
2. オスの PTO シャフトとメスの PTO シャフトを接続する。
3. 昇降レバーをフロート位置とする。昇降アームを押し下げて、昇降アームについている穴とキャスト・アーム・ブラケットについている穴を整列させ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを挿入できるようにする (図18)。

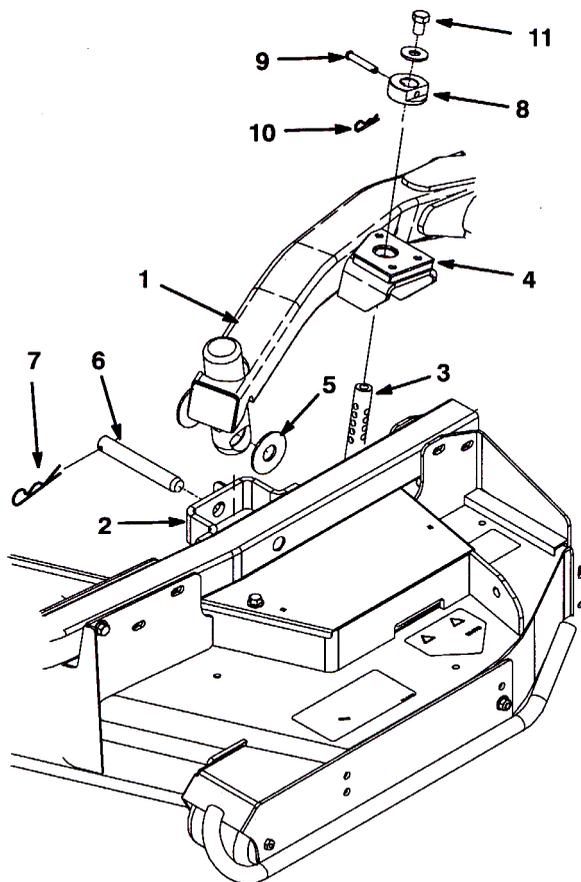


図18

1. 昇降アーム
2. キャスタ・アーム・ブラケット
3. 刈高ロッド
4. 昇降アームのパッド
5. スラスト・ワッシャ
6. クレビス・ピン
7. ヘアピン・コッター
8. 刈高カラー
9. クレビス・ピン
10. ヘアピン・コッター
11. キャップスクリュー

4. スラスト・ワッシャ2枚、クレビス・ピン、ヘアピン・コッターを使って、昇降アームをキャスト・アームに固定する。スラスト・ワッシャは昇降アームとキャスト・アーム・ブラケットの間に入れる (図18)。コッター・ピンを、キャスト・アーム・タブのスロットに差し込んで固定する。
5. もう一方の昇降アームにも同じ作業を行う。
6. トラクションユニットを始動し、カッティングユニットを上昇させる。
7. カッティングユニットの後部を押し下げ、昇降アームのパッドに刈高ロッドを通す。
8. 刈高ロッドに刈高カラーを取り付け、クレビス・ピンとヘアピン・コッターで固定する (図18)。クレビス・ピンの頭をデッキの前に向けておく。
9. 各刈高ロッドの上部に 1/2 x 3/4" キャップスクリューとワッシャを取り付ける (図18)。

シュート・アセンブリを取り付ける

1. カッティングユニットを希望の刈高にセットする。
2. プロアの開口部にある取り付け用スタッドに合わせて、シュート・アセンブリを取り付ける (図19)。
3. ホッパーのフードを下ろし、シュートをフードの鼻に合わせる。ロックナット (5/16 in.) 4個とシュート・ブラケット2個で、シュートをプロアに固定する (Fig. 19)。

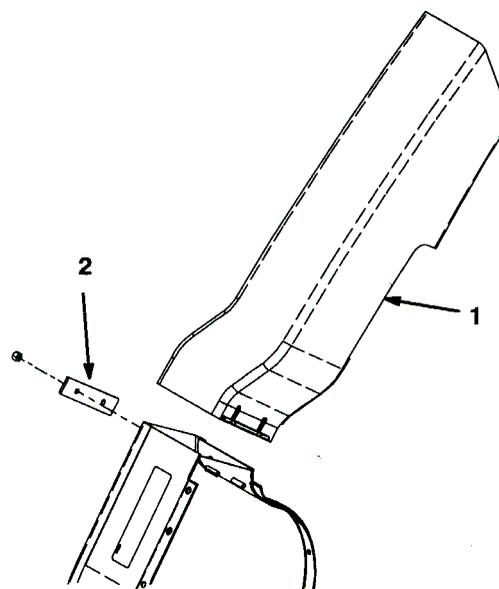


図19

1. シュート・アセンブリ
2. シュート・ブラケット (2個)

操作方法

運転の特性

(9立方フィート(0.25 m³)または15立方フィート(0.4 m³)のホッパー・キットを取り付けて使用する場合)

注意

集草装置を取り付けずに使用することは、必ずデフレクタを取り付けること。

性能を十分に発揮させるために、エンジンがほぼ一定の高速度で回転を続けるように走行ペダルの踏み込み具合をコントロールしましょう。原則として、刈り込みに大きな力が必要なときには走行速度を落とし、刈り込みに必要な力が小さくなったら走行速度を上げるようにしてください。これにより、エンジンが作り出すパワーが、マシンの各部にほどよいバランスで供給され、スムーズな走行、ブレードの高速回転によるクオリティーの高いカット、バキューム、ホッパーへの刈りカスのきれいな吸い込みが実現できます。ブローの回転速度が小さくなりすぎると、詰まりが発生する場合があります。それぞれの運転操作については、カッティングユニットおよびトラクションユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

危険

シュート、ブロー、カッティングユニットに絶対に手足を近づけないこと。

1. この集草装置は、ターフがぬれている場合も乾燥している場合でも使用することができます。非常に高く茂った草を集草装置を使って芝刈りすると、ホッパーがすぐに一杯になって効率的な仕事できません。
2. また、草がぬれて重くなっている場合には、刈りカスの一部がシュートの最上部まで届かない場合があります。シュートに届かなかった刈りカスはシュートの下の穴から抜け落ちますので、通常はシュートが詰まることはありません。刈りカスがシュートの上まで届かない場合は、走行速度を下げてください。
3. バンパーは、ブロー・ハウジングを保護しますが、集草部を衝突から保護することはできません。集草部をぶつけて破損させないように、周囲に注意して運転してください。トリミングは、カッティングユニットの左側で行うようにしてください。

注意

ホッパーをぶつけないように十分注意すること。トリミングは、カッティングユニットの左側以外で行わないこと。

4. 運転中は、時々うしろを振り返って、大量の刈りカスがターフに残っていないか、また、草がきちんと刈れているかを確認してください。これらは、ブローやカッティングユニットが詰まった場合に起こります。症状が見られた場合は、運転を停止し、PTO を解除し、ブレーキを掛け、エンジンを停止させてください。シュート、ブロー、カッティングユニットの内部に異物が引っかかっているか点検してください。異物があった場合には、素手ではなく、必ず棒などを使って取り除いてください。ベルトの張りを点検してください。スリップしている場合は調整してください。
5. 芝刈り作業は頻繁に行いましょう。特に成長の旺盛な季節にはこれが大切です。低く刈りたい場合には二度刈りしてください。刈り幅をすこしオーバーラップさせて刈ると刈り後がきれいになります。

重要 ユニートをトレーラなどに載せて搬送する場合、風にあおられてフードが開いて損傷する危険をなくするために、フードをしっかり固定するか、フードが風下側になるように積むかしてください。

ブローの取り外し

1. エンジンを止め、各部が完全に停止するのを待つ。
2. ラッチを回してベルト・カバーを外す。
3. ジャック・シャフト・アセンブリを調整ブラケットに固定しているボルトとナットをゆるめる。下側ジャックシャフト・プーリーから駆動ベルトを取り外す。
4. ブローをカッティングユニットに固定しているラッチを外し、ブローとシュートを取り外す。
5. 駆動ベルトをベルト・カバーのスプリング・クリップに入れる。
6. ブロー・アセンブリを取り付ける場合には、上記と逆の手順で行う。

デフレクタの交換



警告



排出口を露出させたままでおくと、異物が飛び出してきたオペレータや周囲の人間に当たり、重大な人身事故となる恐れがある。また、ブレードに触れて大怪我をする可能性もある。

- モアを使用するときには、必ず、カバープレート、マルチプレートまたは集草装置を取り付けておくこと。
- デフレクタは、必ず下向きになっているのを確認しておくこと。

1. デフレクタのブラケットの間にスペーサとスプリングを入れる (図20)。スプリングの左側の Jフックを、デッキのエッジに引っ掛ける。

注： ボルトを取り付ける前に、スプリングの左側の Jフックがデッキのエッジに取り付けられていることを確認してください (図20)。

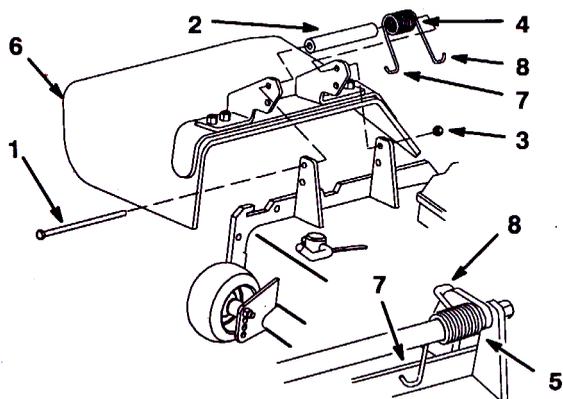


図20

1. ボルト
2. スペーサ
3. ロックナット
4. スプリング
5. スプリングを取り付けた状態
6. デフレクタ
7. スプリングの左側のフック; ボルトの取り付け前にデッキのエッジに取り付けること
8. スプリングの右側のフック

2. ボルトとナットを取り付ける。スプリングの右側の Jフックを、デフレクタに引っ掛ける (図20)。

重要 デフレクタがスプリングによって下向き位置になることが必要です。デフレクタを手で上向きにし、自力で下がることを確認してください。

保守

- ブロアのギアボックスのインペラにゆるみが出ていないか点検する（50運転時間ごと）。インペラ・シャフトのボルトを240～260 in.-lbs. (2.76～ 3.00 kg.m) にトルク締めする。
- 使用後は毎回、フード、ブロア、シュートにたまっている刈りカスを除去する。カッピングユニットの裏側をホースからの水で毎日洗浄する。刈りカスがたまると集草装置が十分に性能を発揮することができない。
- ベルトの張りや磨耗状態を点検する（50運転時間ごと）。
- ブロアのギアボックスは、基本的にメンテナンスは不要。50運転時間ごとにオイル漏れがないか点検する。万一オイル漏れが発見されたら、シールを交換し、高品質モリブデンゲリス60 ccを補給する。同じゲリスを使って、ベアリングにゲリスを詰めてから取り付ける。
- それぞれの運転操作については、カッピングユニットおよびトラクションユニットのオペレーターズマニュアルを参照する。
- ユニットのいつもきれいにしておく。エンジンにゴミや草が付かないように管理する。ボルトナットにゆるみがないか定期的に点検する。デフレクタ、バッフル、シールドに磨耗や破損がないか点検し、必要に応じて交換する。



Toro 一般業務用機器の品質保証

2年間品質保証

保証条件および保証製品

Toro社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間*のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー）に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。

連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
952-888-8801 or 800-982-2740
E-mail: commercial.service@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オーナーズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません。

- Toroの純正交換部品以外の部品や弊社が認めていないアクセサリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 必要な整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレード、リール、ベッドナイフ、ティン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルト、スプレーヤーの一部構成機器たとえばダイヤフラム、ノズル、チェック・バルブなどを言います。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤の使用などが含まれます。

- 通常の使用にともなう「汚れや傷」。通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。

この保証によって取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかは弊社が行います。場合により、弊社は部品の交換でなく再生による修理を行います。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生する間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について: 米国においては環境保護局 (EPA) やカリフォルニア州法 (CARB) で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、エンジンマニュアルまたはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店（ディストリビュータまたはディーラー）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合は本社へ直接お問い合わせください。

Part No. 374-0031 Rev. C